資料分析と発問づくり

資料（教材）分析のポイント　～どんなところに着眼するか（着眼点）～

①人間的な弱さ（人間だれにでもある弱さをみせる場面）

★なぜ、その弱さを見せるのかに共感させることが必要。

★ここでは、他人ごととしてとらえるのではなく、自分にも似たようなところがあるという気持ちをもたせることが重要。

②心の葛藤（弱さに対して、良心の声が聞こえ両者が対立する場面）

★なぜ悩んでいるのか、何を悩んでいるのか、問題点を整理することが必要。

★この場面に焦点をあてると、話し合いは活発になるが、指導する側としては、なぜ、そのように児童生徒が考えるのか考え方をつかむことが必要。

③心の目覚め（弱さを乗り越え、新しい生き方をつかみ取る場面）

★なぜ、乗り越えることができたのかをつかむことが必要。

★この場面を中心場面として押さえることが必要である。

・乗り越える際に、きっかけとなったものや考えやできごとを取り上げて発問をつくると効果的。

・登場人物に関する描写で「副詞句」があれば、それを利用すると効果的。

・「切り返しの発問」を用意することが必要である。特に、ねらいとする価値に迫る発言を捉えて、深め、広げていくことが重要である。

④心の自覚（自分が選んだ生き方を価値あるものとして大切にしようとする場面）

★満ち足りた気持ちや前向きな考えでいる人物の気持ちに共感をさせたい。

〔参考：「道徳教育Ｑ＆Ａ－道徳教育参考資料　改訂版－」（高知県教育委員会）〕

資料を生かす発問づくり　～資料の特質を生かした発問づくり～

■発問の種別　－混同しないこと－

①登場人物の感じ方、考え方を問う発問

②作者の感じ方、考え方を問う発問

③学習者の感じ方、考え方を問う発問

〔参考：田邊重任先生（高知大学）の講演から〕

■発問の類型　－資料の生かす活用類型と具体的発問例－

①共感的活用･･･〇〇はどんな気持ちだろう。〇〇の心の中はどうか。
〇〇はどんなことを考えているか。　など

②批判的活用･･･〇〇のしたこと（行為）をどう思うか。また、なぜ、そう思うか。
〇〇はどうすればよかったのだろう。

③範例的活用･･･〇〇のすばらしい（よくない）ところはどんなところか。
〇〇からどんなことを学び（考え）ましたか。

④感動的活用･･･最も（一番）心を動かされた（心に残った）ところはどこですか。
なぜ、そこに心を打たれる（心に残る）のだろう。

〔参考：「道徳授業の基本構想」青木孝頼　文渓堂〕

指導目標や指導内容の視点、資料の特性に基づいた資料分析について

資料研究の際には、ねらいに応じた資料の押さえどころ、導入や展開後段・終末の工夫、資料提示の工夫、基本発問及び中心発問の工夫、切り返しやゆさぶりの発問、評価のあり方などについて意見を出し合い、学習指導案作成に生かしている。

この資料研究の時間を、本校では部会（低・中・高学年）で行っているが、この時間は複数で行うことに意味がある。複数の目で、いろいろな角度から意見を出し合いながら資料を分析していくことで、それぞれの教師の「資料を多角的に見る目」を育て、授業の中で児童の反応を楽しみながら切り返したり、ゆさぶったりしていくことができるようになるのだと考えている。

発問の工夫と発問構成の工夫　～発問ができるまで～

場面を分ける
道徳的な起承転結、時間の経過、提示との関係などを考えて、資料を３～４場面に分ける。

中心場面を考える
価値内容を深めるために重点的に話し合わせる場面を考える。

中心発問を考える
中心場面の中で価値内容を深める発問を考える。
児童が答えたくなる問い方、多様な意見が期待できる問い方をする。

基本発問を考える
中心発問をもとに、押さえておきたい場面の中から２～３つ程度。資料の中の登場人物に児童を近づける発問、本音を引き出す発問を考える。

児童の反応を常に考えて

発問を考えるときには、常に児童の反応を予想している。本時に目指す児童の姿（この学習をしてこんな考えに気づいた、次はこうしようという意欲がわいた…など）が、授業の後半やふり返りカードなどに現れてほしいと願いながら必要な場面と発問を考えていく。

まず、「中心発問では、どこをどう問えばより深く考えられるだろう」「中心発問の前に、この場面でここを押さえておこう」「どう問えば、自分と主人公を重ねて考えられるだろう」…など指導したい価値内容に向かうための発問を考えている。次に、児童の顔を思い浮かべながら「Ａさんはこの発問で答えられるだろうか」「Ｂくんはこういう発言をするのではないか」「Ｃさんはこんなことを考えるのではないか」…など、児童の反応を予想していく。そうして、よりその学級の児童に合った問い方、価値内容にせまる問い方へと具体化していく。

この発問を考える時間も、学年団や低中高学年ブロックで持つように心がけている。